

A．主な動き

1．内政

- ・26日、ヴォローニン共産党党首は、共産党議員の一部が同党を離党して別の議会会派を形成する可能性がある旨発言。
- ・26日、中央選挙管理委員会は、手続に瑕疵があったとして、議会の信任を問う国民投票実施を求める共産党による請求の審議を延期。
- ・27日、民主党は、プラホドニク同党副党首（議会第一副議長）指揮による同党の党内改革を開始する旨発表。

2．経済

- ・25日、駐モルドバEU代表部は、キシナウで開催されたEU・モルドバ貿易経済関係会合において、モルドバは自由貿易協定の交渉を着々と進めているためウクライナよりも容易に交渉が進むだろうと、ウクライナにおいてはEUとの交渉を19回も要したが、モルドバについては7回の交渉で同合意がなされるであろうとの見通しを表明。

3．外政

- ▼ティモフティ大統領のブリュッセル訪問
- ・27日、ブリュッセルを訪問したティモフティ大統領は、バローゾ欧州委員会委員長、ファン＝ロンパイ欧州理事会議長及びフーレ欧州拡大・近隣政策担当欧州委員等とそれぞれ会談し、モルドバの欧州統合路線に関し説明。バローゾ委員長は、モルドバはEUとの査証免除化交渉の第一段階において大きな成果があった旨発言。
- ▼アジュバリス・リトアニア外相の来訪
- ・25日、アジュバリス・リトアニア外相は、モルドバを訪問し、

ティモフティ大統領と会談。ティモフティ大統領は、モルドバの欧州統合過程及び沿ドニエストル紛争解決に対するリトアニアの支援に謝意を表明。アジュバリス大統領は、モルドバのEUとの査証免除化に向けたEU基準の法整備の重要性を指摘。

▼その他

- ・26日、キシナウにおいてモルドバ・アゼルバイジャン経済協力政府間委員会会合が開催され、フィラト首相、エュボフ・アゼルバイジャン第一副首相が出席、二国間関係の活性化に関し協議。
- ・26日、ラザル副首相兼経済相は、ブカレストを訪問し、モルドバ・ルーマニア経済協力・欧州統合政府間委員会会合に出席し、ガス輸送システム計画を含むエネルギー問題等の広範な二国間協力に関し協議。

4．沿ドニエストル

- ・24日、フィラト首相は、シェフチューク「大統領」と電話会談し、沿ドニエストル地域を通過する貨物列車運行に向けた準備状況につき確認。26日、同貨物列車が6年ぶりに運行を再開し、記念式典に出席したフィラト首相は、鉄道の再開は状況打開への第一歩である旨、シェフチューク「大統領」は、地域経済にとり重要である旨それぞれ発言し、OSCEも再開を歓迎する声明を発表。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」（ロシア語読み）を暫定的に「キシナウ」（モルドバ語読み）と表記しています。
（了）